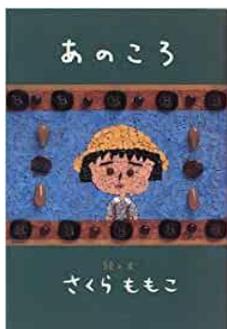




令和3年10月1日発行（第218号）
編纂 夢野台高校図書委員会

皆さん、こんにちは。気づいたらもう十月、夏休みが明けてからテストやら体育祭やらが終わり、一段落しましたね。かと思えば瞬く間に中間テストがやってくるし、なんと十月には祝日がない！！（スポーツの日がオリンピック開会式の日に変更された為）私はこの事実を最近まですっかり忘れていたので祝日がないと知った途端、荒ぶりました。それはもうとてつもなく。きっと私と同じ人もいるでしょう。（いてほしいです）そんな荒ぶった気持ちを落ち着ける為にも本を読みましょう!!読書の秋と言いますし!! 夢野台高校図書館は十月四日にレイアウトを全面的に変更します!!あなたが探している本もきっと見つけやすくなるでしょ。乞うご期待!!



あのことろ

著：さくらももこ

てきやの話術につられて買ってしまった「まほうカード」のからくり。ガラクタの処方に困り果てた家庭訪問の思い出。夏休みの宿題を残り三日から始めたり、遠足先にトイレがないから限界まで我慢したり。

あなたの『小学生時代』を思い出させてくれる、この本はちびまる子ちゃんのこぼれ話。あの頃は深く考えていなかったけれど、今になって振り返ってみると「分かる～」と共感できることがいっぱい。



博士の愛した数式

著：小川洋子

「僕の記憶は、80分しかもたない」

博士の背広の袖には、そう書かれた古びたメモが留められていた…。

記憶力を失った博士にとって、80分前の私は常に“新しい”家政婦。毎朝“初対面”の私に靴のサイズや誕生日を尋ね、「実に潔い数字だ」と感心する。そんな少し変わり者の博士に初めは戸惑いながらも、率直な博士の性格や、彼の話す数学の世界に惹かれていく私と10歳の息子ルート。しかし、どれだけ絆を深めても、そこには「記憶」という越えられない壁があり…。

第一回本屋大賞を受賞したこの本は、松原先生もオススメされる作品です。悲しくも温かい奇跡の愛の物語、皆さんもぜひ、お手に取ってみてください！



推し、燃ゆ 著：宇佐見りん

逃避でも依存でもない、推しは私の背骨だ一。
学校にも、家にも馴染めない。二つほど診断名がついており、生きづらさを抱えている高校生のあかり。
そんな彼女にとって、唯一の救いが『推しの存在』だった。
彼女にとって「推しを推す」ということは『推しを解釈して、推しの見る世界を見る』ということ。彼を応援するためなら、アルバイトにだって励む。しかし、「二つほどついた診断名」の特性が出てしまい、周りからもてあまされてしまう。
どこへ行っても馴染めないあかりは孤独を深め、ますます「推し」を推すことに夢中になっていく。
そんな時、彼女の耳に飛び込んできたニュースー

推しが燃えた。ファンを殴ったらしい。

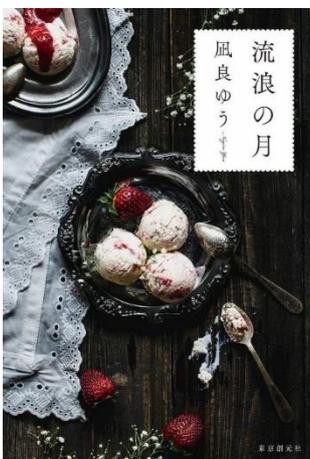
第164回芥川賞受賞作。周囲に理解されにくい病気を抱えて生きていく少女と、彼女の背骨である「推し」。あなたにも『推し』がいるのなら、きっと共感できる。そんな物語。



100日後、きみのいない春が来る。 著：ミナト

高校一年生の風里はからっぽだ。母親が病弱な弟ばかりかまっているのもあり、自分の存在価値が見いだせない。だから自分に自信がない。この性格は風里の悩みだった。風里の幼馴染の千冬はサッカーの元人気選手でクラスの人気者。正反対な千冬は風里にとって憧れだった。例え彼が女の子と話しているところを見ても、気持ちに気づかないふりをしていた。
ある日、弟のお見舞いで病院に行った風里は千冬を見かける。
千冬は100日後に低体温で死んでしまうという不治の病を患っていた。風里は後悔しないよう、運命の日まで一緒に生きようと決意するがー。

読んだらきっと優しい気持ちになれる、そんな一冊です。



流浪の月 著：風良ゆう

“愛ではない。だけど、傍にいたい。”

温かい両親の元で幸せな暮らしを送っていた主人公、更紗は、幼い頃にある事情で大好きな両親を失い、叔母の家で引き取られることになった。しかしそこで待っていたのは、従妹から嫌がらせを受ける日々だった……。居場所がなく苦しんでいた更紗を救ったのは、同じく心に傷を抱えた、一人の誘拐犯だった。
誘拐犯である青年、文との日々は、お互いにとってかけがえのないものだった。いつまでも文とここにいたいと願うも、ある時事件が起こってしまう。きっかけは、更紗が「動物園に行きたい」と、文にねだった事だった…。

この作品は、2020年本屋大賞にもノミネートされています。
男と女。大人と子供。加害者と被害者——。周囲からの勝手な解釈や視線に苦悩するも、力強く生きていく二人の運命の物語、ぜひ一度読んでみてください！

第67回青少年読書感想文 兵庫県コンクール 神戸支部

入選

2年4組 石野 陽菜

題名 「彼女が好きなのはホモであって僕ではない」を読んで
本名 彼女が好きなのはホモであって僕ではない

2年7組 水島 芹香

題名 生きる意味
本名 1リットルの涙

入選は、県大会
に進みます！

佳作

2年3組 春木 建信

題名 「水を縫う」を詠んで
本名 水を縫う

お知らせ

図書館に自習コーナーができました！

一人で集中して勉強したい時に利用してください。

※ 10月4日（月）図書館レイアウト変更のため休館になります。



令和3年度兵庫県ビブリオバトル 高校生大会の開催の案内

1. 開催日時、会場

	日時	会場
予選	令和3年12月25日（土）9:30~16:30 26日（日）9:30~16:30 27日（月）9:30~12:30 ※予選は3日に分けて行います。	県立図書館
準決勝・決勝	令和4年1月30日（日）12:30~16:30	明石市生涯学習センター

※予選の組み合わせ等は、上記の3日間のうちの午前または午後になります。12月上旬に連絡します。

本校から1名募集！



★2021年9月新着図書を紹介（寄贈も含む）★

書名	著者名	出版者
武器ではなく命の水をおくりたい：中村哲医師の生き方	宮田律	平凡社
「環境の科学」が一冊でまるごとわかる	齋藤勝裕	ベレ出版
神戸市史紀要 神戸の歴史 第26号		神戸市(文書館)
下り坂をそろそろと下る	平田オリザ	講談社
はずれ者が進化をつくる：生き物をめぐる個性の秘密	稲垣栄洋	筑摩書房
人はなぜ物語を求めるのか	千野帽子	筑摩書房／
論語と算盤：現代語訳	洪沢栄一	筑摩書房
たちどまって考える	ヤマザキマリ	中央公論新社
水と緑と土：伝統を捨てた社会の行方／改版	富山和子	中央公論新社
当事者主権	中西正司, 上野千鶴子	岩波書店
鳥獣害：動物たちと、どう向きあうか	祖田修	岩波書店
子どもと学校	河合隼雄	岩波書店
子どもが育つ条件：家族心理学から考える	柏木恵子	岩波書店
灯し続けることば	大村はま	小学館
文学に描かれた「橋」：詩歌・小説・絵画を読む	磯辺勝	平凡社
AIの壁：人間の知性を問いなおす	養老孟司	PHP 研究所
はずれ者が進化をつくる：生き物をめぐる個性の秘密	稲垣栄洋	筑摩書房
バンクシー：アート・テロリスト	毛利嘉孝	光文社
目の見えない人は世界をどう見ているのか	伊藤亜紗	光文社
海洋プラスチック：永遠のごみの行方	保坂直紀	KADOKAWA
レバノンから来た能楽師の妻	梅若マドレーヌ	岩波書店
LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門	森山至貴	筑摩書房
私の嫌いな10の人びと	中島義道	新潮社
ひかりの魔女 [3]／さっちゃんの巻	山本甲士	双葉社
朗読者／Der Vorleser	ベルンハルト・シュリンク	新潮社
い	西加奈子	ポプラ社
舟を編む	三浦しをん	光文社
スーラ／Sula	トニ・モリスン	早川書房
悪童日記／Le grand cahier	アゴタ・クリストフ	早川書房
わたしを離さないで／Never let me go	カズオ・イシグロ	早川書房
これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学／Justice	マイケル・サンデル	早川書房
おおかみこどもの雨と雪	細田守 // [著]	角川書店
Newton 科学名著図鑑		マーケティング部
Newton 時間の謎		マーケティング部